

# 漢・十六字磚

後漢時代（1～2世紀）

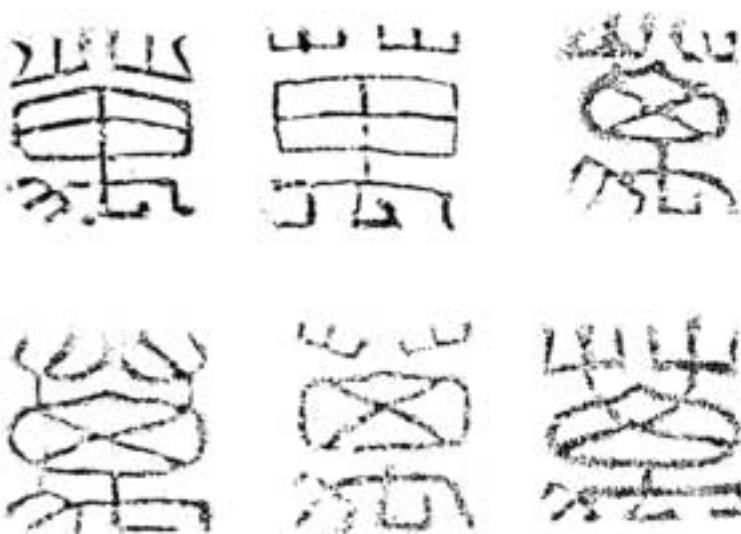


## 碑 法 帖 拾 遺 ①

### 木 雜

木雞室

伊藤滋



近年出土した十六字の磚である。29.5×34.7センチの正方形であり、厚さ3から4センチほどである。文字は陽文の篆書であり、型押しで制作されたものである。縦横に界線があり、外側にも方形の界線がある。磚文は、「海内皆臣、歲登成熟、道母餌人、踐此方歲」の十六字である。始めの一旬「海内皆臣」は、國內統一を指す。古代人は国土が四面海に面していると認識していたので、国を海内、四海と称していた。次の句「歲登成熟」は、年々五穀豊穣の意である。農業主体の社会では、豊作であることが経済繁榮を意味する。第三句「道母餌人」は、道路上に物乞いする人が、無く、人々が皆安樂に生活することを意味する。最後の四句「踐此方歲」の踐の字は、踏むの意であり、脚でこの磚を踏むことは萬寿無疆（命が永遠に続くこと）である。十六字の吉祥語は、政治の安定、経済の繁榮、国民の安樂平和、皇帝の長寿を表している。書法的から見るとそれぞれの文字が皆非常に変化無常（命が永遠に続くこと）である。十六字に富んだ書風を形成している。末の「萬」字を同時に出土した同文の磚から種類の異なる「萬」字を六字集字してみた。それぞれに字画の構成の仕方を微妙に変えていて。制作者の文字に対する個性を見ることができる。最後の万歳の2字のみを原寸で示した。

磚文「海内皆臣、歲登成熟、道母餌人、踐此万歳」



印	印	印	印
印	印	印	印
印	印	印	印
印	印	印	印
印	印	印	印

# 書道藝術院 第1回展 出品作家

一九六八年 パリ展出品作



90.5×65

## 中島邑水

牛歩

私は書を書くことがこの上なく好きです。

筆を執れば、心が安まり充実したくらしがあります。  
悲しい時も

苦しい時も

机の前に座って墨を磨れば、心が定まります。

書は私の命です。

いつも私のいるところに書があります。

書があればいつも健康です。

幸せです。こんな幸せはもったいないぐらいです。

私は遠い彼方を見てゆっくり歩きつづけます。

「一九〇七～一九八六」 埼玉県大里郡寄居町出身、書道藝術院第1回展より審査員、79歳の没年まで、院一筋で活躍。

26歳の時文検合格、高崎市立女子高校に書道教師として勤務。しかし形式的な手習いの現実に迷いを持ち悩む。二年後天来の益を受け開眼、雅休に師事この邂逅が邑水の書人生を決定づけた。師の「毎日五時間、20年も精出せばきっと目的が達成される。これは天来先生が言われた言葉だ。」との話に驚きながらも奮起、他人には想像もつかない課題を自分に課し、過酷なまでの精進を積まれた由。その中から自らの書人生に眞の喜びと深い価値観を得、牛歩の詩も自然に生まれたのである。

邑水は前衛書作家であるが、書美の根源は線に存し、新しい書の創造は古典の研究を基底として発展することに在ると確信、生涯、日夜古典を臨し探し続けそれは甘いものではなかった。漢字、かなも見事である。よそ見をせずひたすら作家としての本道を歩み続けた実力者であろう。

(村野大仙記)

# 謹賀新年

平成20年元旦  
財書道芸術院 役員一同



## 子どしの新年

理事長 恩地 春洋

草創の書道芸術院を知る人は  
少なくなった  
先人の作者名も作品も、苦勞も  
遠い過去のものとなつた。

子どしの新年を迎えた

「堺家と唐様で書く三代目」

という江戸時代の川柳がある  
公募三〇歳以下が三割の時代に入る  
財団法人の上にあぐらをかいて

安心していると家を売ることになる  
先人の残した血と涙の  
革新への情熱を受け継ごう

現実を、現代をしっかりと見つめ  
院に清新の氣を吹きこもう  
力強く両手で支えていこう

二〇〇八年

子どしの新年に

## 書のひろば

理事長 恩地春洋

第60回毎日書道展の概要(2)

	○東京展	○北海道展	○東北仙台展	○東海展	○四国展	○関西展	○北陸展	○中国展	○前期展	○後期展
第一回場	〔東京都美術館〕	〔新潟県立美術館〕	〔新潟県立美術館〕	〔京都市美術館〕	〔愛媛県美術館〕	〔日図デザインセンター〕	〔富山県民会館〕	〔愛媛県美術館〕	7・13(日)	7・17(木)
第二回場	〔新潟県立美術館〕	〔新潟県立美術館〕	〔新潟県立美術館〕	〔京都市美術館〕	〔愛媛県美術館〕	〔日図デザインセンター〕	〔富山県民会館〕	〔愛媛県美術館〕	7・17(木)	7・11(金)
第三回場	〔新潟県立美術館〕	〔新潟県立美術館〕	〔新潟県立美術館〕	〔京都市美術館〕	〔愛媛県美術館〕	〔日図デザインセンター〕	〔富山県民会館〕	〔愛媛県美術館〕	7・21(月)	7・25(火)
第四回場	〔新潟県立美術館〕	〔新潟県立美術館〕	〔新潟県立美術館〕	〔京都市美術館〕	〔愛媛県美術館〕	〔日図デザインセンター〕	〔富山県民会館〕	〔愛媛県美術館〕	7・28(月)	8・1(水)
第一回場	8・6(水)	8・12(火)	8・26(火)	8・26(火)	8・12(火)	8・24(日)	8・24(日)	8・24(日)	8・24(日)	8・24(日)
第二回場	8・13(水)	8・18(火)	8・30(木)	8・30(木)	8・17(日)	8・28(木)	8・28(木)	8・28(木)	8・28(木)	8・28(木)
第三回場	8・14(木)	8・19(水)	8・31(金)	8・31(金)	8・18(日)	8・29(金)	8・29(金)	8・29(金)	8・29(金)	8・29(金)
第四回場	8・15(金)	8・20(木)	8・32(土)	8・32(土)	8・19(日)	8・30(土)	8・30(土)	8・30(土)	8・30(土)	8・30(土)

◆出品規定

※但し(1)かな部は、かなI類、II類

○東北山形展 10・9(木)～13(月)	〔山形美術館〕 〔福岡市美術館〕	役員展 〔札幌市民ギャラリー〕
○九州展 11・11(火)～11・6(日)	〔福岡市美術館〕	○東北山形展 10・9(木)～13(月)
高知展 4・22～27	奈良展 6・4～8	岡山展 4・15～20
鹿児島展 7・14～21	奈良県文化会館 奈良県立美術館	岡山天神山文化プラザ 井之上南岳
鹿児島れいめい館 8・5～10	高知市文化プラザ 成田翠洋	高知展 4・22～27
静岡展 8・5～10	高知市文化プラザ 成田翠洋	高知市文化プラザ 大野祥雲
渡辺墨仙 未定	奈良県立美術館 県立松木会館	奈良展 6・4～8
旭川展 10・11～19	平田鳥闇 道立旭川美術館	岡山展 4・15～20
盛岡展 11・12～16	盛岡市民文化ホール 南 奎雲	岡山天神山文化プラザ 井之上南岳
秋田展 11・21～26	後藤竹清 アトリオ (秋田市)	鹿児島れいめい館 井之上南岳
豊橋展 1・20～25	永井恵子	高知市文化プラザ 大野祥雲
沖縄展 3月(未定)	(委員長 船本芳雲) 浦添市美術館	高知市文化プラザ 大野祥雲
○入選数 50%	○会員賞 各部 1名増	3、記念式典・功労者表彰
時 7・11 午後5時	所 グラウンドプリンスホテル赤坂 (元 赤ブリ)	時 7・11 午後5時
1、企画展「飯島春敬コレクション 名品展(仮称) 国立新美術館 7月9日(水)～8月3日(日)	○会員賞 各部 1名増	所 グラウンドプリンスホテル赤坂 (元 赤ブリ)
〔委員長 「副」 辻元大雲〕	○会員賞 各部 1名増	○会員賞 各部 1名増
2、毎日現代代表作家展全国巡回展 横浜展 3・28～4・6 船本芳雲	○会員賞 各部 1名増	○会員賞 各部 1名増
4、毎日書道60年史の作成	○会員賞 各部 1名増	○会員賞 各部 1名増



忙由の閑 己巳の会員と、馬籠宿に遊ぶ（19.10.22）

DVDで見る毎日書道60年

(委員長 仲川恭司)

田代文流企画展「現代日本の書  
代表作家サンパウロ展」

所  
サンパウロ美術館

6、「現代日本の書代表作家台北展」  
時 H20・9・上旬～10・11まで  
(委員長 舟本芳雲)

出席品  
三〇〇名(予定)  
委員長 岸本 太郎  
担当 恩地 春洋  
毎日書道図書館設立  
(委員長 仲川 恩司)

## 現代詩文書（四）

広瀬舟雲



広瀬舟雲書

私は、この頃、欧洲文化の多大なる影響を受けましたが、西暦2000年にを迎えて以後、書の「横書き」に注目するようになり、その実験時代に入りました。「横書きの書」はどのようにしたら従来からの「縦書きの書」に負けないような作品となるかをテーマとし、試作を繰り返しました。横書きの書研究については、辻元大雲先生によって吉田加南子詩を日本語（原詩）とフランス語の訳詩を対にして書く新しい方法が試みられ、刺激され触発されたことも大きな切っ掛けのひとつです。

私は、日本語の文中に若干の欧文を入れ、横書きとして調和を図ることを試み、「Berlinのかべ」と揮毫して書道芸術院へ出品しました。私がベルリンを訪れたときは、有名な壁崩壊10周年を迎えるとしていました。

私は、わざとベルリンを2行に分け

て東西分断の苦惱をイメージ

しきかつ統合の喜びを表

そうと考えました。自宅

玄関に、ベルリンで買った

た思いでの品「ベルリン

の壁」（本物？）の小片

（かけら）を今でも飾

ています。

「何事もやってみなく

ては判らないし、発展も

無い。失敗を恐れるな。」

というものが私の信念です。

## 前衛書（四）

阿部蕙芳

は、会場、日時、作品点数、案内状等々の企画を行わなければなりません。大変ですが苦しい事、楽しいことを経験することが出来ます。一度、計画開催をお進めします。

私は以前、銀座の小さな画廊で仲間

と開催した時の、ちょっと違った作品についてお話し致します。

展示作品は各、五点制作し、額に入れる前に二点を外に持ち出し、自分達

で撮影、ポストカードにした。その次

の時は残り作品をワイヤーで花に仕立て、立体作品として展示。

これも楽しいものでした。その次は、モ

ビールを作り作品を貼り、天井から吊るし、

動く作品にしました。

これらは勿論、作品の他のものではあります

が、視点を変えた美意識であり新鮮な感じ

と、可能性の追求になり実際に楽しいものでした。

## 21世紀の書 —私の主張—



②

- ① ポストカード  
作品題名「駆る」  
② フラワー

# 「書の道」

山 下 薫

(かな部審査会員)

この世には、書道、茶道、柔道、剣道、など道のつく言葉がたくさんあります。道は何を意味するのでしょうか。いつも身近にあり、私達が使っている道を辞書で調べてみました。

地面に人や動物が往来をくり返すうちに踏みかためられた、ある幅を持つ長いつなぎ。

・どんな順序、方法で進んでゆけば、

どのようなところに到達するかといふ見通し。

など当然ながら、ふだんあまり考えない文章が出てきました。

道の字についていい絵画の分野でも、

果てしない道が描かれた名画があります。そんな作品を見てみると、

この道を辿っていったら何があるのだ

うか、と想像する楽しみがあります。

私が書の道を歩き出したのも、この延長線上だったように思います。

最近「刻る」という人間の昔からの當みに興味を持つようになりました。紙の無い紀元前一五〇〇年頃から、龜甲、獸骨、などに字がぼられていて、その造形の面白さは、時空をこえて新鮮なのです。石に刻したり、木や竹に墨で書かれていた文字が、書の原点として連綿と受けつがれ今日まで

書くことに親しみをもち、筆に気持ちをこめて自分を表現することを学びました。大人になって書の道にすんなり入ってゆけたのは、子供の時の体験があつたからでしょう。

ご縁があつて書道芸術院に所属させていただき、多くのすばらしい先生方との出逢いに恵まれ、漢字、かな、刻字と未知の世界に何かを求めて歩き、年月を重ねています。現在思っていることは、どうやって自分を鍛えていくらしいのか、感性を磨くにはどうするか、試行錯誤の日々がつづいています。

書くことで、多くのすばらしい先生方との出逢いに恵まれ、漢字、かな、刻字と未知の世界に何かを求めて歩き、年月を重ねています。現在思っていることは、どうやって自分を鍛えていくらしいのか、感性を磨くにはどうするか、試行錯誤の日々がつづいています。

書くことで、多くのすばらしい先生方との出逢いに恵まれ、漢字、かな、刻字と未知の世界に何かを求めて歩き、年月を重ねています。現在思っていることは、どうやって自分を鍛えていくらしいのか、感性を磨くにはどうするか、試行錯誤の日々がつづいています。



山下 薫 刻



山下 薫 刻

きている伝統の凄さを思うと、身がひ

歩いてゆきたいと思います。

私は「かな」を書いていますので、

うことがなく、素朴なもので、刻字の素材として目にとまりました。数年前に発掘された馬王堆帛書(帛は絹の布)は、黄褐色の絹に墨で書かれていたとは驚きました。これも紀元前(一九六年、一六八年)の時期の作と推定されているということです。サントリーミュージアムでの出土品展では、文字に宿る古代人の生きざまを彷彿とさせ、当時の豊かな文化を感じさせてくれました。

それに触発されて、日本刻字協会展に馬王堆帛書の文字を参考にして作品を作りました。これが思いもかけなかつた準大賞をいただき、感慨深い作品となつたのです。(写真)

何かを求めてひたすら歩く道、考えてみると道は最短距離で行ければいいというものではなく、寄り道も、迷い道も、それぞれに価値があるようになります。私達がかわっている書の道は、日常的な書くことから、各部門で芸術性を求めて創作してゆくことなど多岐にわたりますが、めげずに

俳句をかな文字でほってみたらどうなるかと思って挑戦した作品です。かなのは繊細なので、ほるのは大変でしたが、出来上ると努力が報われた達成感に浸っていました。(写真)

平成19年度 新審査会員作品

II

浜口瑞春（運）・篠田祐子（か）

完



浜口瑞春  
(高知)

「道」

筆を持って50余年、無終の道をひたすら歩き続ける。生涯学べるものがある喜びを感じながら書いてみました。生き師と先輩方に支えられて今日まできました事に心より感謝し、いつの日か「見ていて飽きない作品」を書けたら…と夢みています。（瑞春）



篠田祐子  
(埼玉)

「菖蒲」

書との出会いは、私の人生をより豊かなものにしてくれました。良き師にも恵まれここまで来られました事、心より感謝しております。これからも書の道を楽しみながら、精進していきたいと思います。（祐子）



〈ご紹介〉

十干・十二支（じっかん・じゅうにし）	
古来から「干支」というのは十干と十二支の略称である。	十
干は、甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸をいい、十二	支は、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥をい
う。十干と十二支と順を追って組み合わせると干支ができる、六	十一年目にまた最初の干支にもどる。また、十二支を二十四時
間に区分して時刻や方位をあらわしたりした。	間に区分して時刻や方位をあらわしたりした。
（十干）子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥	（十二支）子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

秋櫻子の句

「菖蒲」



# 書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

平成19年11月23日(金・祝)午後2時より  
於 千葉県立美術館

## 「種谷扇舟の人と書」

講師 書評論家 田宮文平先生



講師紹介する恩地理事長

### △公開講演会△

常務理事 辻元大雲

本院恒例の創立記念日講演会、本年は千葉県立美術館企画展「種谷扇舟」開催に機を合わせ、会場を千葉市中央港に位置する千葉県立美術館講堂に移して「種谷扇舟の人と書」と題して、書評論家田宮文平先生を講師にお迎えして開催した。

企画展は県立美術館の主催によるもので、種谷扇舟先生没後3年を迎えたのを機に開催され、先生の50代から晩年に至る代表作40余点が美術館第八室を使用して行われた。

11月23日、展覧会開会の前日内覧会



「感謝の一生 八十のよろこび」  
1998年 第50回毎日書道展（文部大臣賞受賞作）



田宮文平先生講演

が行われるのに先立ち午後1時より表記の講演会が開催され、会場の講堂（定員200名）に立ち見でも足りず講堂ロビーにTVモニターを設置し中継してご覧いただく盛況ぶりであった。

講演内容は大きく三部で構成され、はじめに種谷扇舟先生の生き様を、書家として、教育者として、さらにバスケットボールなどの活躍を俯瞰して論じ、次に今回出品作をスライドにて取り上げ作品論を総括、最後に日中友好運動など国際的な広がりと、後進の育成による現在の書道芸術院、毎日書道展・全日本書道連盟などで活躍の場を与えた功績を評価した内容で、具体的な内容を交え、明快で充実した講演で

蔵の絵画を中心とする名品とともに第

八室の種谷扇舟展を見た。館始まつて以来という大盛況の内覧会はご来賓の方々もまじえ午後四時過ぎまで、その後近くのホテルグリーンタワー千葉での白扇会と院の共催による祝賀懇親会へと移動、さらに盛会となり充実した一日となつた。



講演会

書道芸術院創立記念日祝賀会並びに  
千葉県立美術館企画展種谷扇舟展祝賀会

報告 千葉蒼玄



恩地春洋理事長あいさつ

書道芸術院も60回の歴史を経て、新しい時代への一步を踏み出した。この記念すべき時期に書道芸術院の基礎を築いた一人でもある種谷扇舟先生の企

画展が千葉県立美術館主催で開催されたことは、院にとつても誠に意義深いことであった。また田宮文平先生による講演会により、なお一層、扇舟先生の人物と功績が門下以外の方にも深く認識できたことは大きな成果であった。

懇親会での恩地先生の主催者挨拶は院の初期の話に始まり、私たちのルーツが親しい中にも熱き情熱と信念によって営まれていたことを話され、その歴史が院に脈々と流れていることが確認できた。併催である扇舟先生祝賀懇親会、種谷萬城先生からは扇舟先生の人物と友人、門下とのエピソードのお話を聞かれた。来賓である扇舟先生の昔を偲んだ内容で千葉県としての大巨人である先生の生きざまがありありと想起させられた。

その後の懇親会も和やかで賑やかな会であったが、相談役の飯高和子先生からは白扇会の面々の紹介があり和やかで温かい祝賀懇親会であったが、これもひとえに書道芸術院を支えている一本の柱である白扇会の皆さんのが力であると深く感じた会であった。

参加者にとり大変意義のあるものとなつた。

今回は参加希望者を会場の関係で一部お断りするなど申し訳ない事態となり、急速リンクス社スタッフにVTR撮影を依頼、DVDに展覧会の全貌と講演会の内容を全て集録した内容に編集することになっている。講演会に参加できなかつた方、また地方の会員など会場に来られなかつた方々にまたとない資料となることと思う。現在(12月10日)鋭意編集中で、定価千円(送料込み)でお申し込みを受け付け中。(12月下旬完成予定。お申し込み先などは別記参照ください。)

講演会終了後、企画展内覧会へと会場を移動し、一・二・三室の美術館収



内覧会



種谷萬城先生あいさつ

その後の懇親会も和やかで賑やかな会であったが、相談役の飯高和子先生からは白扇会の面々の紹介があり和やかで温かい祝賀懇親会であったが、これもひとえに書道芸術院を支えている一本の柱である白扇会の皆さんのが力であると深く感じた会であった。

## 企画展

## 種谷扇舟

書の源を探究し、  
新しい書の創造へ

会期

平成19年11月24日(土)  
平成19年1月14日(月)

会場

千葉県立美術館

## 展覧会の「あいさつ

千葉県立美術館長

眞田 孝則

このたび、種谷扇舟先生の芸術を紹介する企画展「種谷扇舟—書の源を探究し、新しい書の創造へ—」を開催いたします。

展覧会にあたり、種谷先生の功績を紹介するためには、三つの視点がある

と考えました。

千葉県立美術館は、昭和四十九年の開館以来、県立の美術館という視点から、日本の近代美術の中で優れた功績を残された房総ゆかりの美術家の調査研究を進め、その展覧会を開催してまいりました。

故・種谷扇舟先生

その後、書道展などに作品を発表して、毎日書道会最高顧問や書道芸術院名誉会長などを務められています。

ふたつ目は、書を通じて日本と中国の架け橋として、日中の文化交流に尽力されたことです。種谷先生は、書を

創造するためには、中国の古典を直接学ばねばならないという信念のもと、中国交回復前の昭和四十年から八十年に及び訪中され、北魏の書家、鄭道昭が残した摩崖碑をはじめ、現地での碑文などの探究に務め、数万点の拓本を収集され、中国通の書家と知られることがあります。今回の出品作品には、中国の地や両国との友好を題材にしたもののが数多く含まれております。

最後は、教育者としての活動です。

昭和九年から県内の小・中学校、高校短大、社会教育施設などで約六十年間教職にあって後進の育成に務められ、千葉県の書道教育に残された功績は大きいものがあります。また、白扇書道会を主催されたほか、本館で開催している「日本童謡の書」展は、種谷先生が組織された全国規模の公募展であり、童謡を書で表現しようという近代詩文書によるもので、書を学ぶ年齢層を広げた試みとして、書の普及に多大な功績を残しております。さらに、千葉県書道協会の会長、千葉県美術会の名誉会員として、千葉県の書道界の発展にも尽力されたことはいうまでもあります。

今回の展覧会は、種谷先生が平成十六年に九十歳の天命を全うされてから、三年目にあたり、近代詩文書、漢字、臨書など、先生の代表的な約四十点の作品を紹介する回顧展となります。こ

れにより、書家種谷扇舟の芸術と活動の一端を鑑賞していただけるものと考えております。

末筆となりましたが、展覧会の開催にお力添えをいたいた御子息の種谷萬城先生と飯高和子先生、辻元大雲先生をはじめとする白扇書道会の方々、関係各位に心よりお礼申し上げます。

## 白扇書道会

理事長 種谷 萬城

千葉県立美術館企画展「種谷扇舟」が、多くの関係者各位のご支援をいただき、開催に至りました。また、書道芸術院創立記念日講演会で、田宮文平先生より「種谷扇舟の人と書」のご講演をいただき、展覧会の意義を一層深めてくださいました。

展示作品は、漢字、近代詩文書、臨書等、幅広く選定された代表作で、晩年完熟期の、書道芸術院展、毎日書道展、白扇書道会展、日本童謡の書展、個展の出品作が主となりました。これらの展覧会には、相当情熱を傾けて作品制作をしたようで、作品からその熱意と強いメッセージを感じます。

書の古典を追及し、古典学習の基礎の上に、新しい書を創造することを信条とした父は、広く、深く古典を学び、摩崖、肉筆を自分の目で見るため、訪中を重ねました。訪中百回を目指し、80歳を過ぎても精力的に、団を率いて



## 書の源を探究し、新しい書の創造へ

石門ダム（自作）  
1988年



79×151cm

感謝



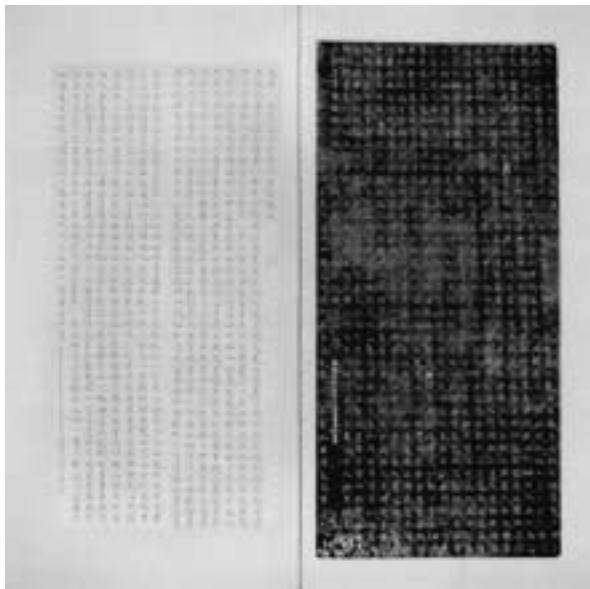
2001年 135×66cm



羊 1991年

180×93.5cm×2

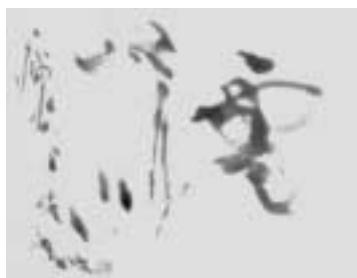
臨  
雁塔聖教序



11 1970年

133×66cm

各地を訪問しました。また、書道資料の蒐集にも努め、広く紹介しました。父は、平成16年12月2日、90歳で逝きました。書道、教育、日中友好、バケットボールに傾注した生涯、多くの方々にご厚誼をいただきました。会場で、懐かしい作品を前に、生前ご厚誼をいただいた皆様から回想談を沢山伺い、父を偲ぶ好機となりました。



雲峰山疲れたよ俺 2004年

34.5×44cm



佛求むりや佛に迷子 2002年

24×33cm

感激人民



1994年



237×58.5cm

謝々中国

用紙 半紙普通判

〔注〕

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
○○臨

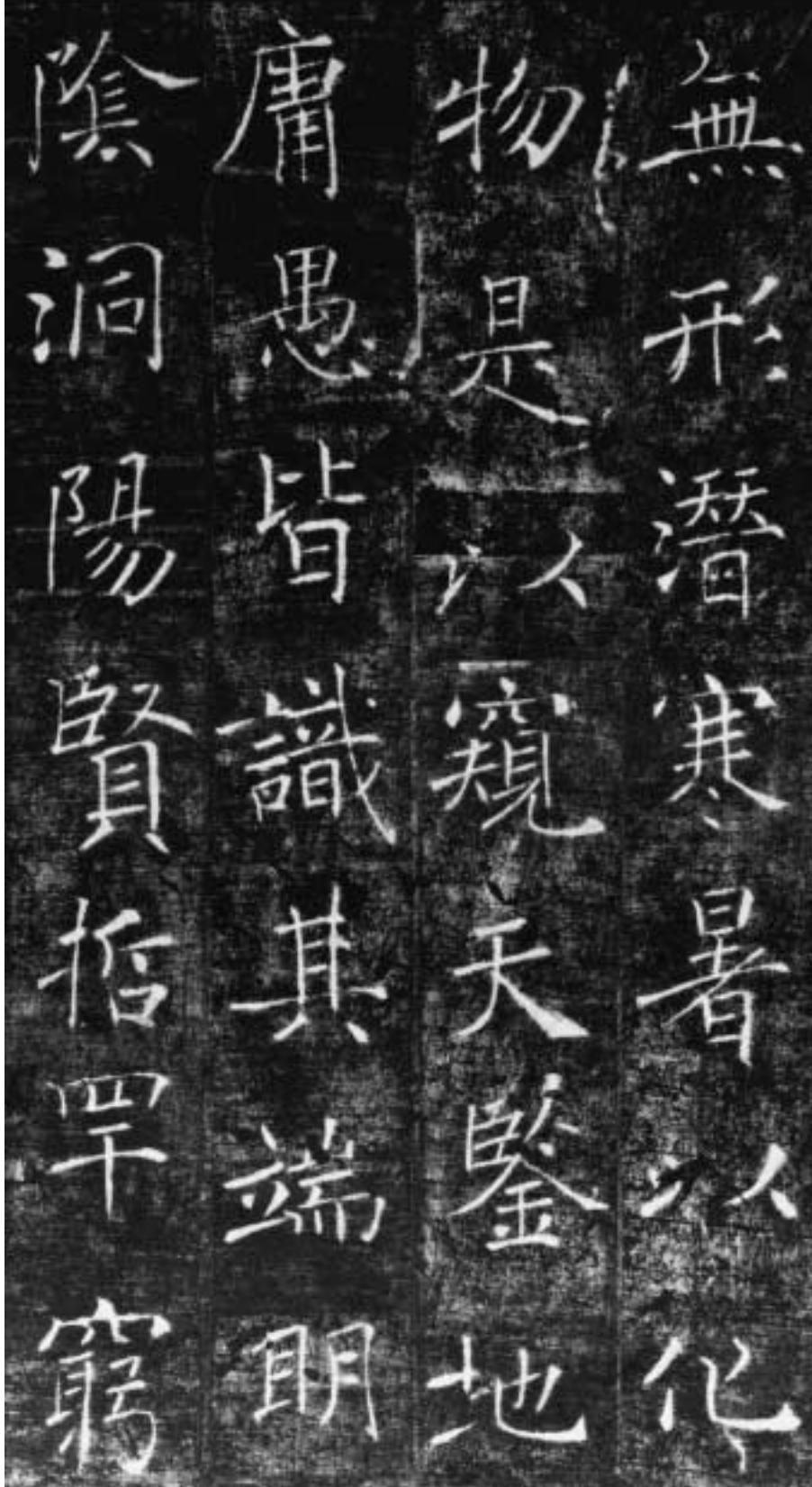
(押印のみも可)

(掲載部分以外は不可)

〈解説〉  
雁塔聖教序は、褚遂良が58歳の時に書いた作。序と記し、二つに分けられて二石に刻されている。序は右行に書き、記は左方より行を起こしている。

碑が出来上ったのは、永徽4年(653)のことである。褚遂良の用筆は、弾力性があり、線の太細・強弱の変化が極めている。また懐広く伸びやかでゆったりした姿態を醸し出している。

(編集部)



無形潛寒暑以化物是以窺天鑒地  
庸愚皆識其端明 陰洞陽賢哲罕窮

用紙  
・半紙普通判（料紙可）  
〈たて長に使用〉

・別紙を裁断して貼付は不可。  
※落款を必ず入れる。署名、  
もしくは〇〇臨  
(押印のみも可)



**解説**  
伊勢集の筆者は不明だが、本願寺三十六人家集の中でも同様の書風には友則集、斎宮集がある。

装飾的な料紙にふさわしい伊勢集の書風は、柔らかく丸味のある愛らしい字形と、丁寧で深い呼吸をやどしながらの軽快なリズムからなる。

（よみ）

うつろは（者）むことだに（尔）  
を（平）しき（支）秋は（者）ぎ  
(支)にをれぬば（者）か（可）り  
(利)もお（於）け（希）る（類）露  
か（可）な（那）

京極院に（尔）亭子みか（可）  
どおは（者）しま（万）し（志）  
て花の宴せさ（佐）せたま  
(万)ふ（婦）に（尔）ま（万）い  
れ（礼）とおほ（保）せらるれ  
(礼)ば（者）みに（尔）ま（万）  
いれ（礼）り（利）い（伊）け  
(希)に（尔）花ちれ（礼）り  
(利)

としごとに花のか（可）み  
(三)となる（類）みづ（徒）は  
(盤)ちり（利）か（可）ゝる（流）  
を（平）やく（久）も（類）とい  
ふ（婦）らん（无）

最首翠風

和氣作新年  
(和氣新年と作す)

新年らしい語句を選びました。  
この一年、目標を持って学書に励  
みたいものです。

今回は草書五字句に連綿を加え  
てみました。筆は唐筆の「東方紅」  
墨は「五百斤油」。亡き扇舟師よ  
り中国土産にいただいたもの。中  
濃墨にしたので潤筆の線がしっと  
りした感じを演出したかもしま  
せん。草書体を使う時は正しい形  
をよく覚えて迷いなく書きたいも  
のです。ある程度の速度は必要で  
しょう。ただ、速さによって線が  
弱くなりがちなので注意。筆の彈  
力を生かした強い線を生み出して  
ください。

半紙というこの長方形の土俵の  
中で自由な技を展開してほしいも  
のです。

和氣作新年 よみ (和氣新年と作す)

書体=自由

習い方解説 (四)

稻垣 小燕

和氣世例  
(和気は世の例)

風雨和順なり天下の春

新年の幕開けを和やかな気持ちで  
進みたいものと願ってこの語句を  
選びました。語意に従って、穏や  
かな温か味のある表現をと心がけ  
ました。  
「氣」のバランスに特に注意しま  
した。

世和氣  
小燕

和氣世例 よみ(和気は世の例)

書体=楷書

習い方解説 (四)

黒川 江偉子

歌留多とる皆美しく負けまじく  
(高浜 虚子)

初春を迎えました。年を重ねてもお正月は楽しいものです。この句もまさにその事をよんだと思ひます。美しい春着を着て歌留多に興じる女性達の様子が、深水か夢二の絵を見るように浮かびます。

「かるたとる」と潤筆で始まり「みな美しく」で渴筆に、「負けまじく」で墨継ぎ、この散らしのように、二行目と四行目のしが並ぶ場合は墨色、線質の変化に留意して書いてください。他にもいろいろ自分なりに構成し苦しみながら楽しんで書いてください。句意からも、お正月らしい華やかな料紙を選んで書くのも、かなを書く情趣の勉強だと思います。

よみ方 かるたと(登)る(流)みな(奈)美しく(久)負けま(万)じく(九)

創作

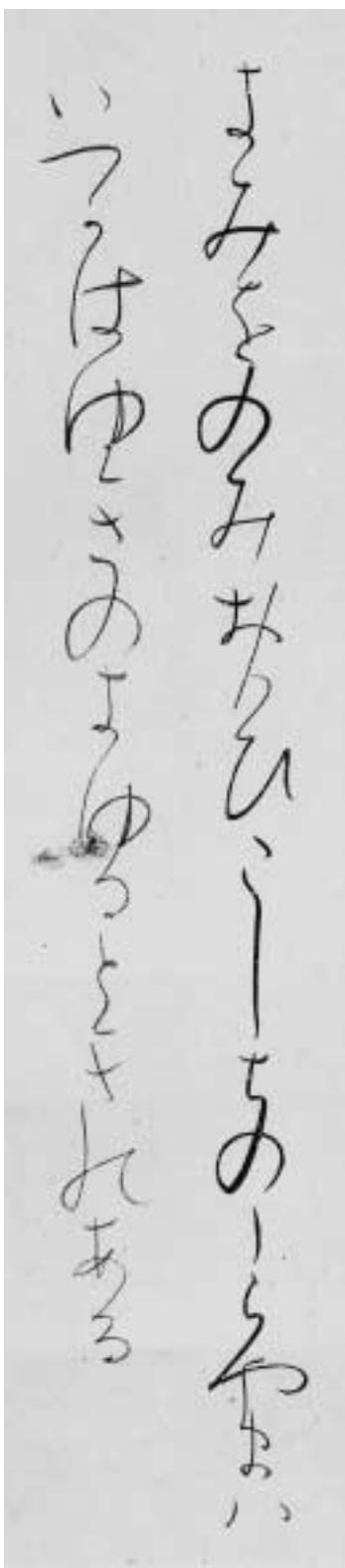


かな規定 秀級以下【1月二十日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

高野切 第三種

(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全額、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。



よみ方 き(支)みをのみおも(元)ひこしがのしらやまは(八)  
じつか(可)はゆきのき(支)ゆるときの(能)ある

### 習い方解説 (一)

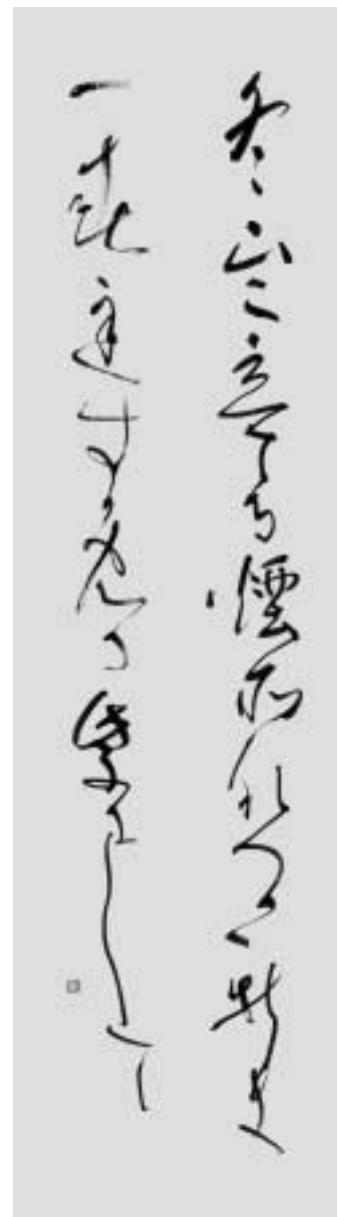
朝倉春江

冬山に立てる煙ぞなつかしき  
すぢ澄める紫にして

(若山牧水)

かな条幅規定【1月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

朝倉春江 選書



よみ方

冬山に立てる煙ぞ(所)な(那)つか(可)し(新)き(支)  
一す(春)お(遅)す(寸)め(免)る紫に(尔)して

創作

\*たて形式に限る

大字がなの一般的な二行書きです。歌意に添ってすつきりした表現にするために、文字の大きさや墨量、運筆の緩急に留意しました。二行目行頭は渴筆になるのでゆっくりと大きく展開して一行目とのバランスをとります。後半は墨跡ぎをしながら右に傾くようにしました。

漢字条幅規定 初段以上【二月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

大野祥雲選書

### 習い方解説 (四)

大野祥雲



濁酒一樽聊永日 小園三畝亦新春  
(濁酒一樽 聊 日を永くす 小園三畝亦新春)

書体=自由

「濁り酒が一樽あるので、のどかに日を過ごすことができる。庭はわずかだが、新春のいい景色である。宋・陸游詩。」  
作品制作に当っては、素材からの印象によって影響を受けることが多い。この作、くつろいだ気分で文字の大小・太細・潤渴など自在に書いてみた。が、なんだか散漫な感じになりました。

漢字条幅規定 秀級以下【二月二十日締めきり】用紙 小画仙紙半切

小川弘舟選書

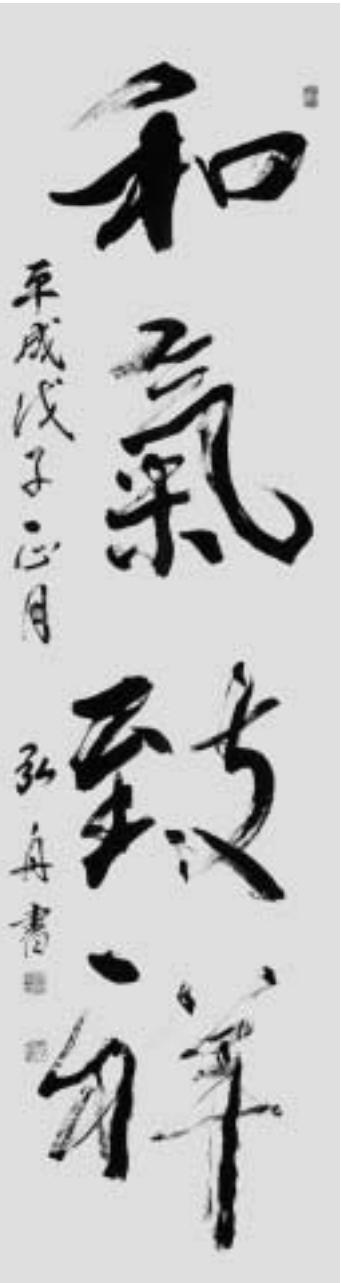
### 習い方解説 (四)

小川弘舟

和氣致祥

「お正月のめでたい句」です。

今月は、行書で王羲之風に書きました。1月ですので落款に干支で年号を入れました(平成 戊子 正月)、落款は「落成款識」の略で、書画の完成を記して署名捺印するもので「いつ、どこで、だれが」などを書きます。作品の仕上げなので丁寧に書いてください。



和氣致祥  
(和氣祥を致す)

書体=自由

ペン字規定【二月二十日締めきり】

阿部珠翠選書

習い方解説 (四)

阿部珠翠

新し、年の始めの初春の力

今日降る雪の、や重け吉事

(大伴家持)

新し、年のけ、やに当る初春の  
今日降る雪が積もるよ、よ、よ、  
重なつて来、よ、事、か。

書

新しい年を迎えました。

「…いや重け吉事」

…重なつて來い、よい事が。

「万葉集」大伴家持の歌です。昔も今  
も変らず、願うことは、同じです。

今回、歌と祝文を組み合わせて書いて  
みました。祝文を少し、小さめに書  
きましたが、(大伴家持)を抜かして、  
同じ大きさで書くのもよいでしょう。  
バランスを工夫して書いてみてください。

もう一つ、賀の歌を

「日のまへに春の來たりしよろこびの  
外に唯今何ごともなし」

与謝野晶子の歌です。年頭に、こんな  
心境もよいですね。

よい一年でありますように。

参考著書 (祝文)

飯島春敬編「かな墨場辞典」

\*落款を入れ忘れないようにしてください  
さい。(落款は自分の名前を入れて  
ください。)

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品  
各部総評 No. 558

漢字部 師範 濱野 琴爽  
「山高」の単体と「水長」の連綿線で中央の白を生かした構成見事。線強くスケールの大きい佳作。

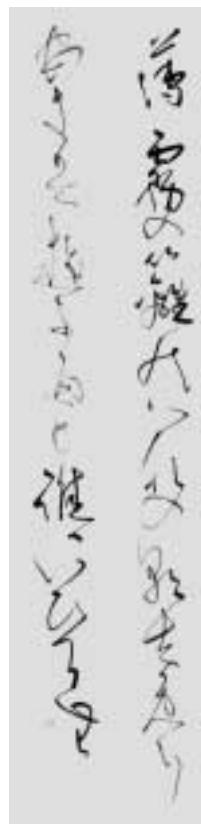
◎漢字部総評 心の動きが線の動き、線の研究は書の中心にあることは勿論だが、文字造形や構成も大切な研究です。 (春洋評)



漢字条幅部 師範 浪川 秋花  
独特の木簡帛書のスタイルを追求して安定。更に軽やかなりズムが加われば動きある作に。期待大。

◎漢字条幅部総評 篆隸表現に意欲的な作多し、反面草書表現は線の甘さが目立つ。下級四文字はバランス悪い作多し。

(大雪評)



かな条幅部 準師範 加部 富美  
しなやかな線がよく食い込み、しかも表現過剰にならず美しい。



◎かな条幅部総評 漢字の誤字が目立ち残念です。字典を傍に置く習慣を。墨量过多でかなのが美を損うので慎重に扱うこと。(明子評)



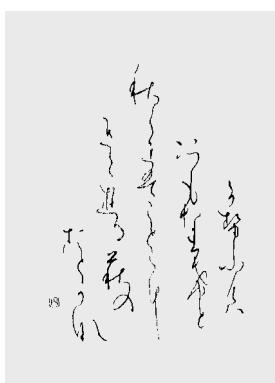
現代詩文書部 特選 板橋 雅邦  
濃墨ながら筆圧の変化あり、線の切れ味鋭く「白」が美しい。詩典臨書で筆力を鍛えたい。(美光評)



前衛書部 特選 松永 杏苑

濃墨を使用しての筆の開閉がきいていて力量も見え線が生き生きとしていて見事。

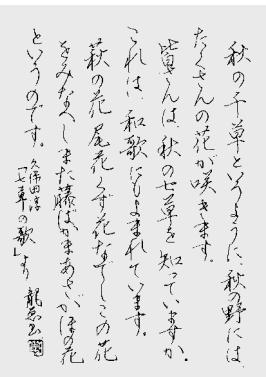
◎前衛書部総評 作品多くなり嬉しい、作品は濃墨で線を書こうといいう意気込み見え感激。(如水評)



かな部 師範 小山 尚子  
最終行の納め方が少々気になりますが、充実感あり白眉。自分の特質を生かした構成も心憎い限り。  
◎かな部総評 毎回のことですが、掲載の手本と同じ位の大きさの方がまだまだ多い。拡大コピーで確かめるのも一案です。(洋子評)

ペン字部 師範 加藤 龍恵  
実用書一行の十数文字に精緻さ逞しさを表わし落款まで達者な作です。ますます挑戦してください。

◎ペン字部総評 参考手本を離れて自運作が多かったよい傾向思いますハガキと雖も作品です。心静に制作しましょう。(京華評)



今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

前衛書

浅野彩紅

(蓮紅) 「一期一会」



浅野彩紅書  
180×60cm

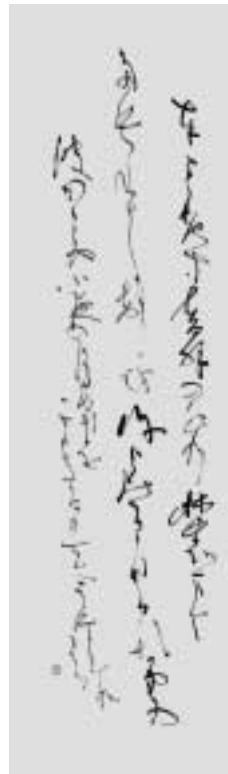
◆筆の流れを出すための動きが大きいが、その動きに変化があると一つの作品の中にはまた違った流れが生じて来るのは。従つて墨色にも変化が。(倫子評)  
◆現代の感覚を間違なく表現している。筆さばきは冴え構成も卒なく、大作も難なくこなしている力量は認めたい。前衛書とは? と考えた。(春洋評)  
◆大きな紙面に思いをぶつつけた大胆な筆づかいは見事です。ほとばしる感じに合うモダンな雅印を使うと、一段と格が上がったのでは……? (明子評)  
◆題名の意図は仲々理解しがたいが、スケールの大きさ、紙面に充満するエネルギーを感じる。落款印の位置は平凡か。もっと鮮明な押印を。(大雲評)

かな

鈴木朝夫

(志引)

金葉集より「ほととぎす音羽の山の…」



鈴木朝夫書  
180×60cm

◆2×6形式に流れよくまとめた。潤滑のバランスも安定。文字のデフォルメがやや行き過ぎ、音羽の山の羽、山などもう少し正確に。(大雲評)  
◆大作に相応しく、最後まで揺らがぬ緊張感が頼もしい。勢い余って筆が走りすぎて、誤字となつた箇所は残念。柔らかい筆も試しては? (明子評)  
◆大きな紙に飲まれる事なく巧みに表現、流れも美しく変化している。墨色に一寸あき足らないものを感じるが、紙のせいか墨色のせいか……。(倫子評)  
◆大きな紙の規定にふさわしい仕事である。藏峰で書きの高い線の流れがリズムに乗つて快い。欲をいえば、くつろいだ気持ちがほしいが……。(春洋評)

## 総評

四国の役員巡回展  
を訪れた折に安芸市

の書道美術館を訪ねた。1月下旬とはい

え天候もよく楽しい1日であった。

アーティスト

の書道美術館を訪ねた。

美術館には日下部鳴鶴はじめ現代の書

を築いた鋤々たるメンバーの作品が並

んでいた。私たちは作品を書くことだけ精いっぱいであるが、次の時代に

思想を引き継いでゆくことも大切なこ

とである。書道芸術院も60年を過ぎ新

しい一步を踏み出している。私たちも

何かを残せるのであろうか。

今日は94点(漢22、か7、現32、前

31、篆2)作品寸法が変わり大作も多

くなってきた。大きい作品は初心者に

手を出しにくいということもあるが、

それぞれの研究の成果を発表すること

により次の段階に進むことができる。

ふるって出品を。

◆特選候補者

(蒼玄)

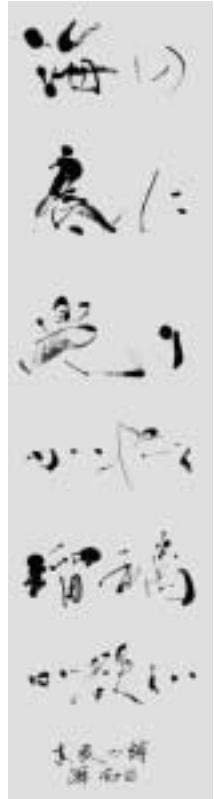
前前前前前篆現現現現かか漢漢漢  
詢詢詢詢詢詢大眩青声玄卯如炎佳佐藤  
扇扇扇谷谷谷大眩青声玄卯如炎佳佐藤  
小神三神木阿佐伊米渋前田ま山本由  
林田村田原部々木澄幸春貴尚惠景彦  
澄子彦子有泉霞香一紅美子

藤象洋龍

(蒼玄)

現代詩文書

〔大雲〕長島 儂 雨



135×35cm

長島 儂 雨 書

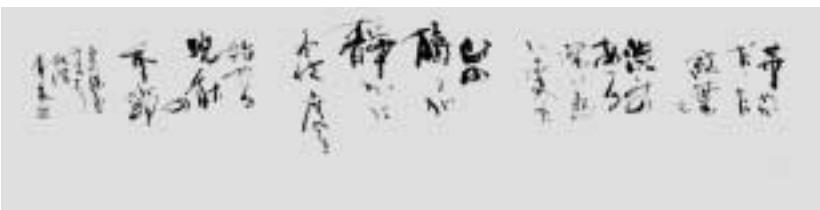
漢字 馬場寿舟

(八幅)



135×35cm

木村貴衣  
書  
35×135  
cm



現代詩文書

〔亥〕木村貴衣  
「東山魁夷の文より」

◆柔かい線質と相まって、暖かさを感じさせる抒情の書、こじんまりとまとまってしまうとつまらない。線の深さは技術だけではないかも?

◆墨色の変化にさそわれて思わず口ずさむ樂しさを与えてくれる。(春洋評)

◆落款を含め大きく五つの集団で紙面にリズム感を醸し出す。素朴な筆づかいが味わいを見せ、余白を生かす。詩情を感じさせる作である。(大雲評)

◆魁夷の叙情と作者の重なりがよく、天性の字形のよさと相まって、落ち着きのある作品が生まれたのでしょうか。集団ごとの余白も美しい。

(明子評)

◆横書きに馴れない作家にとっては、すごく心をひかれるものがある。リズム的である。欲をいうともう少し字に大小つくとどうか?。(倫子評)

◆横書きの読みにくさを解消する間で、安定した作品となっています。太細の変化が創る雰囲気が魅力です。捺印までが作品要注意。(明子評)

◆半折を縦に使って横書きでまとめた実験作。明朗な作であるが必ずしも成功とは思えない。線軽く構成は散漫一試作として拝見した。(春洋評)

◆爽快なリズムの横書き作。大きく広げた線の華やかさに一瞬ひかれるが上すべりの感があり。筆端の流れをもう少しコントロールしては。(大雲評)

◆横書きに馴れない作家にとっては、すごく心をひかれるものがある。リズム的である。欲をいうともう少し字に大小つくとどうか?。(倫子評)

馬場寿舟 書

漢字研究部  
(薦季直表)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品

臣繇言  
光風

城鳥光風

漢字研究部 特選 城鳥 光風



松尚泉和悠彩  
鳳子燁香幸華

響香翠よ叙深  
し  
神蘭江子舟雪

華郁美妙真芳  
佐  
祥子郵峰翠

直爽箕孝幸茱  
子陽城子雲仙

味わい深い線質で、全体のまとまりもよい。  
筆先の動きに神経が行き届き、繊細な中にも  
力が内にこもって線が充実している。欲を言  
えば字形をさらに扁平に仕立てた方がよかった。  
特に「遭」の字が惜しい。が、実力は傑出。  
◎漢字研究部総評

薦季直表は鍾繇の作品の中でもぱっとりと  
した味わいを持ち、楷書ながらも行書の気分  
と筆意が表れている。古雅とも古朴とも評さ  
れるこの味わいを表現するのが実は大変難し  
い。審査して感じた二つの留意点を記してお  
くと、一つに動きが硬すぎるか締まりがなさ  
過ぎて原帖の味わいから離れる危険性。二つ  
に拓本には点画が不明瞭な箇所があり、見た  
ままに書くと余分な点画を加えたり、点画の  
脱落を犯したりしがちであることである。

# か な 研 究 部 (小島切)

選評 朝倉春江

今月のホープ作品

（略）

川崎優子

◎かな研究部総評

◎かな研究部総評 拡大臨書では線が細いために弱くなったり繊細な表情や明るい量感が不足する弱点があります。古典の持つ時代背景や特徴をつかむと作品は生きると思います。

## かな研究部成績発表

**かな研究部 特選 川崎 優子**

千書卯大N大治 葉泉月雲H雲田	秀	前仙北舎広八高大五岩大彩卯書英童遊遊大A正も玉京八蘭 橋台陸島街崎雲葉沼阪 月泉峰泉雲阪!華く松橋街鼎	特選
湯坂新川坂礫瀧 本口谷西本貝上 と 禮し嵐瑞み清初 子子泉雲よ羅代	湯坂新川坂礫瀧 本口谷西本貝上 と 禮し嵐瑞み清初 子子泉雲よ羅代	石高西春香熱北朝都石目岸天岡佐西久藤書戸播吉佐川 坂崎岡日川田村倉丸崎賀田野部藤水澤次村谷部本田々崎 みみあ 光敏悦 富紅欣爽ど正窓東い照桂龍彩良昌悦紅佑室優 代子子裕子彩子陽り子秋子子芳香宝峰童子子子麗子華子	木
竹扇	佳	藤如八桂華石卯こ秀五大泉玉大澄大大も石青三大調も澄前澄玄竜A生北 月街月祥習月だ峰葉阪会松阪春阪雲阪く音青鷹雲布く春構翠泉I大陸	
河岡	作	伊治羽小加関栗梅渡森小小塩押深飯森生森松林後福木西字碓猪日本伊君吉 藤田成川藤矢原原辺田野高澤山堀田下駒田丸 藤川村川井并瀬比内島藤田十四	
星		昭芳紅輝雅愛信虹信睦萩西美純清惠祥萩藤愛雙祥和淳藤楠 玉湖志寿 子江樋峯芳泉子桂澤子光鈴紅子洗萩泉花谷石鶴子香子象彌弘孫舟龍子勳四子	

石竜戸木 習泉出曜	湘大炎も竹澄霧広大童大正志秀大澄石卯玄卯広秀こ童塙道童大大童 南阪佳く扇春月島阪泉阪華阪引峰阪春習月翠月島水だ泉和 泉阪拙泉	華童艸正童石前秀八高千樹こ大千治大 祥泉玄華泉習橋水街崎葉原だ阪葉田阪
入 牛牧小黒 丸野路江 美慈千幸 右子代穂	田後佐大木宇湯川松後徳永河鈴高岩飯犬津中須熊門五今若鈴高岸荒土志熊加小星森内春花古青波庄吉神花嵐池 中藤野下田本本佐藤田井合木橋根嵐飼田井田谷脇十村菜木橋本木谷村野藤森野田田山里木谷司野野田本 多川 風たまゆ美 野江	吉喜華藤恰春桂南白良秋宏智朝幸紫道幸翠清紫信佳貴矩え雅萩孫づ抱谷龍皓勝智蹊理愛咏彩萩艶麻萩 恵子炎采扇華月汀鉢泉峯枝子天苑峯苑石子蘭子泉子泉子泉景功舟涼惠り枝博泉美子翠子華軒祥碧子子深
前生千紅大行香高大秀高玉翠高艸華大さ書 N 明京艸泉湘東声高皓遊戸遊も四己泉福東明蓮千湘 己如童 稲硯石硯藤 橋葉大峰葉阪徳月陵阪明陵葉柳陵玄祥阪つ泉日漢橋玄会南向香崎映雲出雲く谷禾会山光漢紅葉南 未月泉 毛水習木	植平新柳紫茂橋浅鈴會小岩山阿近丹中安富浜伊伊社近亀永佐昌鈴酒中安吉楠森木羽辻岡小小遊大小中館成泉三細佐宮高 村山井堀雲木見木林崎田部池羽澤藤田田藤本藤井田藤山木井井部田 田原片 本暮澤佐櫛嶋山野澤水嶋村々藤澤野 富由 五美 富志 木佳 美彩廣政煌真都紀香勇芳洋明百柳惠雅華萩よ則良三松紫時詠芝香惠祥明紀和鐵尚勇洋真昭和紅幸路尚津裕龍敏貴雅代草 昌子華子翠日蘭子生介萩子子考子子祥彩子子佑和春風子子秀揚子子心阳子子子絆子子子学子子苦子秋蘭	

## 平成20年 (財) 書道芸術院 年間行事計画表

		芸術院行事		展覧会関係	
月	日	内 容	日	展覧会名等	場所
1月	7	仕事始め	5～13	毎日新春展	セントラル
	23	第61回展役員書類搬入	5～12	毎日新春展(役員)	和光
	29	第61回展作品搬入			
	30	第61回展特別賞選考(審候) 都美			
	31	第61回展特別賞選考(審) 都美			
2月	5	第61回展陳列(都美)	4～5	毎日書道展運営委員会	
	6	第61回展記者会見10時	6～11	第61回書道芸術院展	都美
	12	第61回展搬出(都美)			
		第61回展書道芸術院展行事			
	10	鑑賞会(都美) 14時			
	11	表彰式(帝国ホテル) 10時			
		祝賀会(帝国ホテル) 12時			
3月	16	評議員会・理事会(精養軒)	6	全書連総会、講演会	
4月			17	毎日事務局合同会議	如水会館
5月	18	評議員会・理事会(精養軒)	23～25	第60回毎日書道展鑑別	新国立
			29～31	高野山展審査	
6月	8	第60回学生展締切	26	毎日展対策委員会	
	13	第60回学生展A賞準備	27～29	第60回毎日書道展審査	新国立
	14	第60回学生展審査(事務整理15日)			
	14	第62回書道芸術院展運営委員会			
7月			1	第60回毎日展会員賞選考	都美
			2	第60回毎日展文科賞選考	都美
			9～8/3	第60回毎日書道展	都美・新国立
	12	毎日展書道芸術院祝賀会	12	毎日展表彰式・祝賀会	赤坂プリンス
			11～16	加藤翠柳生誕100年展	仙台メディアテーク
	31	第60回学生展表彰式	28～8/3	第60回学生展	都美
8月	8	秋季展締切	1～3	全書連夏季講習会	
	22	秋季展審査	8	高野山展表彰式	
	23	単位認定講習会(岡山)(23～24)			
9月	29	秋季展陳列	30～10/5	秋季展	セントラル美術館
10月	4	秋季展行事			
		表彰式、研究会(13時)			
		祝賀会(16時)			
11月	23	院創立記念日(精養軒)			
		理事・評議員会(10時)			
		講演会(14時)			
		懇親会(16時)			
	26	第62回書道芸術院展一般・無鑑査搬入			
12月	8	書初展締切			
	13	第62回書道芸術院展			
		一般無鑑査鑑別審査(～14)			
	22	書き初め展審査			
	26	仕事納め			

